

特集 市民活動・市民運動と市民活動資料, 市民活動資料センター : 特集にあたって

ARAI, Yoko / 荒井, 容子

(出版者 / Publisher)

法政大学大原社会問題研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

The Journal of Ohara Institute for Social Research / 大原社会問題研究所雑誌

(巻 / Volume)

666

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

2

(発行年 / Year)

2014-04-25

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00009974>

【特集】市民活動・市民運動と市民活動資料，市民活動資料センター

特集にあたって

2006年10月9日「市民活動資料・情報センターをつくる会」設立総会が開催された。

同会の設立を中心となって呼びかけたのは、2002年3月に閉鎖された東京都の「市民活動サービス・コーナー」の元職員たちだった。同コーナーは30年に渡って市民活動を支援する事業を展開し、大量の市民活動資料を収集・保存・提供してきた。都は、同コーナー廃止と同時に、職員・市民の反対をよそに、この資料を廃棄しようとした。

同コーナー閉鎖と同時に解雇されることになったり、有志の市民とともにNPO法人アンティ多摩を設立した元職員たちは、それら大量の市民活動資料をダンボール500箱に梱包して保持し、その保存・提供先を探し続けたが、見通しがたたなかった。そのような状況の中、これらの資料の引受け先を探すという目前の課題と、他方で「市民活動資料」の収集・保存・提供公開活動の重要性に共感し、ともに歩んでくれる仲間を組織化しようと試みたのだった（この経過は本特集の江頭論文に詳しい）。

この設立総会に集ったメンバーの中から運営委員が10数名選出された。設立に向けた準備会から参加していた者もいたが、初対面同士も多く、仕事も、研究・活動分野もまちまちだった。以来この運営委員会が中心となって、時にメンバーの出入りを交えながら、梱包されたままの「市民活動資料」をどうするかという当面の問題と、他方で、「市民活動資料」を生かしていく「センター」のあり方について、さまざまな角度から話し合いが重ねられてきた。

大原社会問題研究所をはじめ、さまざまな資料センターを訪問し、その活動内容、運営方法についても学んできた。「市民活動資料センター」のようなものの大事さを訴えつつ、その意味を考える学習会も重ねてきた。しかし大量の資料を引受ける組織は見つからず、いよいよ募金で資金を集め、自前で、「市民活動資料・情報センター」を設立しようと歩みはじめた矢先、法政大学環境アーカイブズに出会った。2012年秋、大量の市民活動資料は同アーカイブズに寄託されることになり、さらに同アーカイブズが大原社会問題研究所に移ったことで、これらの資料は同研究所に移管されることになった。

「市民活動資料・情報センターをつくる会」はこれを契機に、一方で環境アーカイブズ（大原社会問題研究所内）と連携し、「市民活動資料」の整理方法の研究も手掛けることになった。また他方で、市民活動サービス・コーナー閉鎖後にNPO法人アンティ多摩が再開した、市民活動資料の収集・保存・提供公開事業を引き継ぐ「市民活動資料・情報センター」を、すでにアンティ多摩が賃借していた施設の改修を経て、2014年4月に正式に設立することになった。設立するセンターの名称は「市民アーカイブ多摩」と決まり、「市民活動資料・情報センターをつくる会」の名称や組織も、今後、改められる予定だ。

今号の特集は、「市民活動資料」のセンターをつくろうという、「市民活動資料・情報センターをつくる会」を中心とする、この具体的な市民運動の歩みを踏まえながら、その中で改めて問い返さ

れている「市民活動」「市民運動」の「資料」の意味・意義、そしてその資料を収集・提供する「市民活動資料センター」の意味、あり方について、歴史研究、市民運動、社会教育、アーカイブズ学、図書館学・資料館論という分野から論じ合うものとした。

執筆者はすべて、「市民活動資料・情報センターをつくる会」運営委員のメンバーである。

このテーマに係る学際的な研究の端緒となれば幸いである。

(荒井 容子)

《法政大学大原社会問題研究所叢書》

法政大学大原社会問題研究所／菅 富美枝 編著

成年後見制度の

新たなグランド・デザイン

人びとが保護の対象から自身の権利を行使する主体となるための支援とは何か。ケア、介護、消費、福祉など、さまざまな現場と世界の最新状況から、成年後見制度を再構築する。 5985円

法政大学大原社会問題研究所／原 伸子 編著

福祉国家と家族

一九八〇年代以降に福祉国家が縮減する過程とグローバル化の下で家族政策が主流となつていく文脈を、米・英・独・スウェーデン・日本などの歴史的な事例を通して比較検証する。 4725円

船橋晴俊、壽福眞美 編著

公共圏と熟議民主主義

《現代社会研究叢書9》
現代社会の問題解決

今日の原発・エネルギー問題、移民の受け入れ、環境破壊、基地問題など、現代社会の諸問題を公共の場での熟議を通して解決するために、日本と諸外国の具体的事例をもとに検討。 4935円

ニクラス・ルーマン 著

《叢書・ウニベルシタス961・962》

社会構造とゼマンテイク 1・2

社会学の可能性を開く新たな社会システム理論はあるのか。法や教育、社会学論など多様なテーマに関して行なつた思想的な研究。①巻 徳安彰訳：5040円／②巻 馬場靖雄・他訳：5460円

ウォルフガング・ソフスキー 著

《叢書・ウニベルシタス988》

安全の原理

自由と安全のどちらを選ぶのか。自然災害、金融、経済不安、原発事故、紛争、テロなど、現代社会に顕著に現われる安全をめぐる諸問題について考察。佐藤公紀・S・マスロー訳：2940円

法政大学出版局

〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-2-3
TEL 03-5214-5540/FAX 03-5214-5542

<http://www.h-up.com/>
※表示価格は税込みです